

3章『あみたんの謎』7

「あ、あみたん！ その体、どうしちゃったの!?!」

秘密の特訓をするため、あみたんの法力で亜空間へと移動したかのんとせしるは、目の前にズドンとそびえ立つ巨大なあみたんの姿に驚愕していた。

「これが本来の僕の大きさだよ。もっとも、この亜空間じゃあ、本当の大ききさなんて、全く意味を持たないものだけだ」

「そっか。あみたんって……」

「あの、高岡大仏さんなんでもね、本当は」。かのんとせしるは納得したように顔を見合わせた。

「さあ。ここなら、時間を気にすることなく、存分にダンスレッスンもボイストレーニング

あみたん娘

The NOVEL

酒井 直行

もできるからね。しっかり特訓してくれたまえ」

あみたんは、いつもより自信たっぷり2人を見下ろし、そしていずこかへと消えていった。

「何？ 顔に何かついてる？」

「ううん。ただ……せしる、なんだか急に大人っぽくなっちゃった気がする。『ホームグラウンド』なんて、小学で、何をなさってらっしゃるの？」

かのんとせしるは、お互いの会話の中に初めて使う単語や言い回しが混じっていることに疑問を感じつつも、あまり深く考えないまま、ステイックを手にし、「変身！ あみたん娘！」と念じた。

七色の光が2人を包み、あみたん娘カノンとシルへと変身する。彼女たちが時間を気にせず、ひとしきりダンスとボイストレーニングに汗を流し、ひと休みしていたその時だった。



キャラクター原案 松原 秀典
イラスト 那智 那智

「なんだか、あみたんの態度、ムカつく」。かのんがせしるに耳打ちした。

「まあまあ。たぶん、ここが彼のホームグラウンドなんだよ。許してあげようよ」。せし

「あなた……知ってる」。シルが思わず声を上げた。

「さあ。ここなら、時間を気にすることなく、存分にダンスレッスンもボイストレーニング

「あ、本当だ。なんでかな？」

「あなた……知ってる」。シルが思わず声を上げた。